

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
専門学校 浜松医療学院	平成13年3月27日	遠藤 進	〒434-0038 静岡県浜松市浜北区貴布祢232番地の3 (電話) 053-585-1333																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人森島学園	平成13年3月27日	森島 康之	〒434-0038 静岡県浜松市浜北区貴布祢232番地の3 (電話) 053-585-1333																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
医療	医療専門課程	柔道整復学科	平成16年文部科学省 告示第17号	—																											
学科の目的	本校の柔道整復学科は、人間が本来持っている自然治癒力を呼び起こし、回復に導くために必要な知識・技能および態度を修得し、健康な人間性を持ち、医療・保健及び福祉の充実に貢献できる柔道整復師の養成を行うことを目的とする。																														
認定年月日	平成26年3月31日																														
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技																								
3年	昼間	2750時間	2060時間	—	180時間	—	510時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
180人	132人	0人	7人	14人	21人																										
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末・学年末の試験、実習成果、履修状況を総合的に勘案して行う。																											
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月25日～9月25日 ■冬季: 12月20日～1月15日 ■学年末: 3月1日～3月31日		卒業・進級条件	本学院の教育課程の修了又は卒業は、所定の課程の授業科目にすべて合格した者について進級判定会議及び卒業判定会議で成績評価のうえ、学院長が認める。																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 学生と保護者及び担任による三者面談及び学科長等による面談を継続する。		課外活動	日本赤十字社献血協力、浜松シティマラソンボランティア、医療法人社団あずま会 夏祭りボランティア ■サークル活動: 有																											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 接骨院、鍼灸接骨院、病院、介護施設等 ■就職指導内容 就職説明会、就職ガイダンス、キャリアデザイン講座 ■卒業生数 29 人 ■就職希望者数 18 人 ■就職者数 15 人 ■就職率 83.3 % ■卒業者に占める就職者の割合 51.7 % ■その他 進学率 24.1% (鍼灸学科、大学) 令和 2 年度卒業者に関する 2021年5月1日 時点の情報		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年4月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柔道整復師 国家試験</td> <td>②</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	柔道整復師 国家試験	②	16人	16人																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
柔道整復師 国家試験	②	16人	16人																												
中途退学の現状	■中途退学者 4 名 令和2年4月1日時点において、在学者105名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者101名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職)、学校生活不応、学業不振等 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生と保護者及び担任による三者面談及び学科長等による面談を継続する。		■中退率	3.8 %																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 在校生/卒業生特待制度、遠隔地入学者助成制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※継続申請中																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科のホームページURL	https://hamamatsu.morishima.ac.jp/course/jyusei																														

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①就労に必要な知識、技能、態度を意欲的に学習できるよう、就労体験を計画的・系統的に実施する。
- ②自己理解、他者理解を深め、柔道整復師として良好な人間関係を構築できるよう、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ③企業等の専門的な経験・能力を重視し、企業等の人材を活用した指導計画を立案する。
- ④企業等の人材を活用し、柔道整復師としての最新の領域について理解を深めるとともに、そこに必要な知識・技能・態度を身につける。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学内組織の中に職業実践専門課程委員会を設置、その傘下に教育課程編成専門部会を置き実践教育に向けた協議の場としている。
専門部会での協議結果は、委員会への報告・検討の後、教育内容へ盛り込まれる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
遠藤 進	専門学校浜松医療学院 学院長	令和2年4月1日～令和4年3月31日(～2年)	
鈴木 康仁	専門学校浜松医療学院 教務部長	令和2年4月1日～令和4年3月31日(～2年)	
村田 隆郎	公益社団法人静岡県鍼灸師会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(～2年)	③
村松 剛史	公益社団法人静岡県鍼灸マッサージ師会(理)	令和3年4月1日～令和5年3月31日(～2年)	①
森上 克彦	公益社団法人静岡県柔道整復師会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(～2年)	③
横田 正史	公益社団法人静岡県柔道整復師会(理事)	令和3年4月1日～令和5年3月31日(～2年)	①
山口 秀之	専門学校浜松医療学院 事務長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(～2年)	

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(6月/10月予定)

(開催日時(実績))

令和2年度 第1回 令和2年6月4日 19:15～20:15 第2回 令和2年10月29日 18:30～19:30

令和3年度 第1回 令和3年6月3日 19:15～20:15

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会での意見を職業実践専門課程委員会、教務委員会ならびに学科内で検討している。
※意見活用の具体例)学術・研究に対する取り組み・柔道整復臨床実習での課題研究レポート実施。静岡接骨学会学生発表。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①現場を肌で感じ、治療家として必要な豊かな人間性を養う。
- ②最新の測定・評価を学び、患者個々に最適な治療プランを導き出す。
- ③あらゆる患者に対応できる臨床技術を総合的に体得する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

測定評価・臨床徒手検査法・施術(固定術・整復術)等について実技授業を通じて現場で活用できる技術の体得を目標としている。
現場で実技力を発揮できるよう、学修成果の把握には臨床環境下を想定した実技試験を採用している。

(3)具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
社会福祉	自己及び他者の身体と密接に関わる中で細かな人間観を育むことを目標とする。日本赤十字社救急員養成講座・社会保障制度の理解	(有)敬愛会
健康科学	アロマハンドリラククスによる自然治癒力の増進及び自然療法の活用を学習する。	ハーブ・アロマスクール
リハビリテーション医学1	リハビリテーションの基礎に加え、医療機関で行われる外傷のリハビリテーションの実践を実習形式にて学ぶ。また高齢者施設における機能訓練指導方法についても学習する。	常葉大学 (静岡理学療法学科)
整形外科学	関連領域となる整形外科医学分野を理解することにより、柔道整復師としての幅広い知識の向上を目標とする。	深澤進次 (医師・産業医)
臨床実習1・2	静岡県西部支部柔道協会の主催する県西部中学校・高等学校の柔道部練習会における救護サポート実習を通じて、スポーツ現場において柔道整復師が必要とする総合力を身に付ける。	静岡県西部支部柔道協会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※森島学園規程集就業規則 第8章 第44条、第45条に基づき、教員に対する研修等を以下のように実施している。

- ①カリキュラム内容に関する学術・技術力向上のため学会・研修へ参加する。
- ②学校協会が主催する研修会へ参加する。
- ③県職業教育振興会の主催する研修会に該当教員の参加を義務付ける。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

通年:学園附属臨床施設での臨床研修 全学科教員
※予定していた実務に関する研修は新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止が相次ぎ実行不能となりました。
(公益社団法人静岡県柔道整復師会主催 静岡接骨学会、公益社団法人全国柔道整復学校協会主催 教員研修会、他・開催中止)

②指導力の修得・向上のための研修等

令和2年7月29日:進研アド教学Webセミナー「withコロナ時代に求められる教育・指導体制とは」参加教員2名
令和2年7月30日:公益社団法人静岡県職業教育振興会主催 新任教員研修「専修学校における職業教育」参加教員2名
令和2年8月4日:公益社団法人静岡県職業教育振興会主催 新任教員研修「学生・教員のための実践心理」参加教員1名

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

令和3年9月25～26日:公益社団法人全国柔道整復学校協会主催 第63回教員研修会
※一般社団法人日本柔道整復接骨医学会主催 学術大会:開催日程未定
通年:学園附属臨床施設での臨床研修 他
※新型コロナウイルス感染症の影響により研修計画を変更する場合があります。

②指導力の修得・向上のための研修等

令和3年7月・8月:公益社団法人静岡県職業教育振興会主催 新任教員研修
令和3年9月25～26日:公益社団法人全国柔道整復学校協会主催 第63回教員研修会
※新型コロナウイルス感染症の影響により研修計画を変更する場合があります。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

職業実践専門課程としての社会的役割と貢献に向けた学校作りのために評価を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学校生活支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で協議される内容について、実現可能であるものについては実際のカリキュラムや教育活動に盛り込み、年間を通じた教育計画を運用することにより着実に実行する。
 具体例) 学術的取り組み: 学生の学会発表(静岡接骨学会)、職能団体との関わり: 県師会開催勉強会への学生参加

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
村田 隆郎	公益社団法人静岡県鍼灸師会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	PTA
村松 剛史	公益社団法人静岡県鍼灸マッサージ師会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生
森上 克彦	公益社団法人静岡県柔道整復師会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
横田 正史	公益社団法人静岡県柔道整復師会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページURL ※毎年度7月(予定)

<https://hamamatsu.morishima.ac.jp/school/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

関係業団ならびに企業・事業所に向けて本校の教育活動について広く周知を求めを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の強み
(2) 各学科等の教育	学科紹介
(3) 教職員	教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリアサポート
(5) 様々な教育活動・教育環境	資格 就職
(6) 学生の生活支援	各種入学サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	各種入学サポート制度
(8) 学校の財務	情報公開
(9) 学校評価	情報公開
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

<https://hamamatsu.morishima.ac.jp>

授業科目等の概要

（医療専門課程柔道整復学科）令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会福祉	一次救命処置の知識・技術の習得、及びスポーツと福祉の現場における患者・選手等の立場、心理、背景にある制度等の基礎的知識の修得を目指す。	1前後	60	4	○	△	○	○			○	○
○			情報管理学	コンピュータ、インターネットの仕組みなどの基礎知識を勉強するとともに、文書作成ソフト、プレゼンテーションソフトのメリットを理解し、操作方法をマスターする。	1前後	60	4	○	△	○	○			○	
○			スポーツ	柔道整復術のルーツとなる柔道の歴史を学びながら、スポーツを通じた心身の健全な発育について様々な視点から考える力を身に付ける。	1前	30	2	△	○		○			○	
○			健康科学	治療と健康・美容領域との中間である自己の持つ自然治癒能力を増進させる癒しの領域を目的とするアロマハンドリラクソスの技術を正しく身に付ける。	2前後	60	4	△	○	○	○			○	○
○			解剖学 1	医学の基礎となる解剖学を知る。解剖学を通して将来医療の一端を担う職業に就く事を自覚し、同時に解剖学を理解してその面白さを感じてもらう事を目標とする。	1通	80	4	○			○		○		
○			解剖学 2	脈管系、神経系、内臓系、内分泌系、感覚系の構造と機能を理解する。	1通	80	4	○			○			○	
○			生理学 1	分子から細胞、組織、器官、個体に至る広範囲な生命現象を対象とし、解剖学、生化学、薬学、その他関連分野の知識と結びつける。	1通	80	4	○			○			○	
○			生理学 2	分子から細胞、組織、器官、個体に至る広範囲な生命現象を対象とし、解剖学、生化学、薬学、その他関連分野の知識と結びつける。	2通	80	4	○			○			○	
○			運動学 1	運動力学、運動生理学、小児発達、バイオメカニクスなどについて専門的知識を習得する。	2後	20	1	○			○			○	
○			運動学 2	身体運動における筋骨格系の作用について専門的知識を習得する。	3前後	60	3	○			○		○		
○			公衆衛生学	疾病の予防、健康の保持増進を達成するためには地域、個人、家族等、さらには行政、医療の専門家が、相互に参加していくことが必要であることを知る。	1通	80	4	○			○			○	

授業科目等の概要

（医療専門課程柔道整復学科）令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			病理学	疾病を「かたち」として理解し、それを臨床に応用して治療に役立てることができるようにする。	2通	80	4	○			○			○	
○			一般臨床医学	臨床医学一般に関する知識を習得する。	2通	60	3	○			○			○	○
○			外科学	柔道整復師に必要な外科学知識を学ぶ。	1前後	60	3	○			○			○	
○			整形外科学	医学分野、医学基礎分野を理解することにより、柔道整復師としての知識の向上、学術分野の飛躍を目標とする。	2前後	60	3	○			○			○	○
○			リハビリテーション医学1	基礎となるリハビリテーションの概要を理解し、運動の仕組みとして身体各部の機能や運動学について学ぶ。	3前後	60	3	○		△	○			○	○
○			リハビリテーション医学2	柔道整復師として必要な外傷・障害のリハビリテーションについて学ぶ。	3後	20	1	○		△	○		○		
○			医学史	医療の歴史を学ぶ。現代医療について学ぶ。医療に携わることを学ぶ。	1後	20	1	○			○			○	
○			柔道整復術の適応	適切に柔道整復術を行うため、柔道整復術が適応するか否かを判断力を養う。	3前	30	2	○			○			○	○
○			職業倫理	柔道整復師としての社会的責任を自覚し、社会保険や関係法令、ルールを遵守しながら誠実・公正に職務を遂行する能力、および取り組み姿勢を学ぶ。	3前後	15	1	○			○			○	
○			社会保障制度	療養費を取り扱う柔道整復師として必要となる社会保障制度の知識を学ぶ。	3前後	15	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程柔道整復学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			関係法規	法律学の基礎を固め、柔道整復師の関係法規を理解する。	3前	30	1	○			○		○		
○			柔道 1	礼法、受身(後、横、前、前回り)、投げの形(手技、腰技)を修得する。	1後	20	1			○	○		○		
○			柔道 2	礼法、受身(後、横、前、前回り)、投げの形(手技、腰技)を修得する。	2通	80	4			○	○		○		
○			柔道 3	礼法、受身(後、横、前、前回り)、投げの形(手技、腰技)を修得する。	3前後	60	3			○	○		○		
○			基礎 柔道整復学 1	柔道整復術を学ぶうえでの基礎となる理論を、十分な理解のもとに修得する。基礎の部分を強化し、柔道整復の知識をより深く理解する。	1通	80	4	○			○		○		
○			基礎 柔道整復学 2	軟部組織損傷総論において、捻挫、筋、腱、末梢神経、血管、皮膚の損傷を解剖学的に理解する。	1通	80	4	○			○		○		
○			基礎 柔道整復学 3	医学分野、医学基礎分野を理解することにより、柔道整復師としての知識の向上、学術分野の飛躍を目標とする。	1前後	40	2	○			○		○		
○			臨床 柔道整復学 1	脱臼について、解剖学と運動学的理論により総合的に理解し、臨床に応用する。	2前後	40	2	○			○		○		
○			臨床 柔道整復学 2	上肢の骨折について、解剖学と運動学的理論により総合的に理解し、臨床に応用する。	2通	80	4	○			○		○		
○			臨床 柔道整復学 3	下肢の骨折について、解剖学と運動学的理論により総合的に理解し、臨床に応用する。	2通	80	4	○			○		○		
○			臨床 柔道整復学 4	軟部組織損傷について、臨床に沿った知識を持ち、常に現場をイメージすることにより、臨機応変に対応できる力をつける。	2通	80	4	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程柔道整復学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			柔道整復学総合1	専門分野である「柔道整復学」と専門基礎分野の知識を理解し、柔道整復師に必要な総合的な知識を身につける。	3通	80	4	○			○		○		
○			柔道整復学総合2	専門分野である「柔道整復学」と専門基礎分野の知識を理解し、柔道整復師に必要な総合的な知識を身につける。	3通	80	4	○			○		○		
○			柔道整復学総合3	専門分野である「柔道整復学」と専門基礎分野の知識を理解し、柔道整復師に必要な総合的な知識を身につける。	3通	80	4	○			○		○		
○			柔道整復学総合4	専門分野である「柔道整復学」と専門基礎分野の知識を理解し、柔道整復師に必要な総合的な知識を身につける。	3前後	40	2	○			○		○		
○			柔道整復実技1	固定に関する基礎知識の習得と基本包帯法を身に付ける。	1通	90	3	△			○	○		○	
○			柔道整復実技2	体表解剖を理解するとともに、外傷および障害の評価に必要な触診技術を身に付ける。	1通	90	3	△			○	○		○	
○			柔道整復実技3	柔道整復師の取り扱う各種外傷・障害に対する具体的な治療法（整復・固定・後療法）について学ぶ。	2通	90	3				○	○		○	
○			柔道整復実技4	臨床教育の総括的な場として、柔道整復師が必要とする総合力を身に付ける。	3前後	60	2				○	○		○	
○			柔道整復実技5	臨床徒手検査・測定評価の総復習を行い、臨床における施術方針と適切な判断力を養う。	3通	90	3				○	○		○	
○			柔道整復実技6	実技認定試験項目を中心として、臨床上必要とされる柔道整復術を修得する。	3通	90	3				○	○		○	

